

## しっぽの会トークイベント

# 「知ることからはじめよう！」

2010年8月14日

紀伊国屋書店札幌本店 1F



(左から、坂上華奈さん、稲垣代表、GUCHYさん)

8月14日～19日まで開催された2010しっぽの会イベント「知ることからはじまる—7633失われた小さな命たち」。初日 8月14日のトークイベント「知ることからはじめよう！」には、150人を超える方がお集まりくださり、立ち見ができるほどの大盛況となりました。

トークゲストのGUCHY(グッチー)さん、坂上華奈さんにはご自身の愛犬の話などを交えながら犬猫に対する思いや、札幌・北海道の犬猫殺処分の現状についてなど、当会代表稲垣とともに熱く語っていただきました。

### GUCHY

HBC「グッチーの今日ドキッ！」メインパーソナリティ。北海道日本ハムファイターズやコンサドーレ札幌のMCとしてお馴染み。また、ラリージャパンやトヨタビッグエアー、世界バレーなどスポーツ系イベントのMCを多く務めている。温かで心優しい、北海道大好きな大の愛犬家。動物愛護に理解が深い。

PROFILE

### 稲垣 真紀

しっぽの会代表。幼いときから全ての生き物が大好き。保健所に棄てられ殺処分されている犬猫を見て心を痛め、2004年自宅敷地に保護施設を作る。2007年にスタッフが加わり、ボランティアも増えて活動が本格化。犬猫だけではなく、毛皮、動物実験、産業動物の問題にも心を痛めている。

PROFILE

### 坂上 華奈

ペットグッズオンラインショップMOBBYのオーナー。タレント。初めて9年前にペットショップでキャバリアを購入。犬にどっぷりはまった結果、動物業界の裏側を知らしめられる。また、札幌市動物管理センターから保護したブルマステフと暮らす。少しでも不幸な動物を減らすため、日々奮闘中。

PROFILE

**坂上**：本日はお暑い中、第3回あいがん動物を守るHOKKAIDO しっぽの会トークショー「知ることからはじめよう！」におこしいただき誠にありがとうございます。坂上華奈と申します。

**グッチー**：みなさん、こんにちは！こんなに集まっていたら、ホントに嬉しい限りです。グッチーこと関口直紀と申します。

**稲垣**：今日は皆さんお忙しい中、誠にありがとうございます。しっぽの会代表、稲垣です。今日は楽しんでみてください。よろしく願います。

### この子達に何か出来ることがないのか（稲垣）

**坂上**：グッチーさんも犬を飼われてますよね。

**グッチー**：そーなんです。うちは黒のラブラドルレトリバーとキャバリアの二匹なんですけど。みなさんは犬、飼ってますか？（会場、挙手）飼ってないという方？これから飼おうかな～なんて思ってる方は？

（会場、挙手）

**坂上**：そういう方には是非聞いていただきたい！今日は！

**グッチー**：ラブラドルレトリバーって頭が良いですよ～。餌が貰えるとか、ご飯が貰えるとなると、ほんとに何でも言うこと聞きますよ。ぴたーっと横を歩きますし、待ってて言ったら1時間以上待ってますし。

**坂上**：ほんとですか？

**グッチー**：待ってます！けど、おやつが無いよと言ったら「え～！ないんだったら言うこと聞かれないじゃん！」と態度が変わる。

**坂上**：それは賢いですね～。

**グッチー**：だいたい人間のやってることが分かってるみたいですね。今日も「また置いていくんだ～」という目でずっと見てました。モーリーのとも犬飼ってるんですよね？

**坂上**：うちはブルマスティフっていう巨大なちよつと問題児と、グッチーさんと同じキャバリア。これがいろいろありまして…後ほどちよつとお話させていただきな～と思うんですけど。

**グッチー**：ハハハ

**坂上**：今日はしっぽの会のことが分からないっていう方もいるかもしれないので、稲垣さんから説明していただきたいんですが。しっぽの会はいつから活動をスタートしたんですか？

**稲垣**：犬を保護して新しい飼い主さんを探すという活動などを本格的に始めたのが4年前。私が個人でコツコツ始めたのは7～8年くらい前です。

**坂上**：始めたきっかけってのは？

**稲垣**：以前、ある牧場でパート勤務をしていたんですが、そこに犬・猫が捨てられるんですよ、ダンボールに入れられて。「この子達に何か出来ることがないのかな～」という思いがいつの間にかこういう形になりました。

**坂上**：なるほどね～。最初は一人で、ですか？

**稲垣:** そうですね。当時は、もし私に何かあったら犬たちは保健所に戻さざるをえないというプレッシャーもありましたね。いろんな覚悟をした上で引き取ってはいましたが、今はたくさんの仲間に支えられているので、そういった心配はないです。

**グッチー:** 今、しっぽの会には何頭くらいいるんですか？

**稲垣:** 現在は犬が40匹、猫が30匹くらいです。

**坂上:** それは会として多いほうですか？平均？

**稲垣:** 多くなりましたね。これまではだいたい犬30匹、猫20匹をキープしてきたんですけど。おかげさまで新犬舎を建てるのが出来まして、今はまだ物置状態ですが、場所があるのでつい連れて来てしまいました。

**坂上:** 引き取りの多くなる時期みたいなものってあるんでしょうか？

**稲垣:** ありますよ。やっぱり冬。クリスマス時期とか、暮れあたり。

**坂上:** 帰省するからとか、そういう理由ですか？

**稲垣:** なぜでしょうね。あとは2～4月あたりが多いです。

**坂上:** 引越し時期？

**稲垣:** そうですね。たぶん、そういった絡みがあると思うんですけど。

**グッチー:** ボランティアさんは毎日来てくれているんですか？

**稲垣:** パートスタッフが5名と、定期的にきてくれるボランティアさんが20人から30人ほどですね。交代で、毎日犬の世話をさせていただいています。

**グッチー:** 毎日それだけの数の犬・猫のお世話をするのは大変ですね。

**稲垣:** そうですね～、老犬も増えてきているのでいろいろ手はかかりますよ。今年は暑いじゃないですか。スタッフが休む部屋には扇風機もないけど、犬には扇風機を当てているような状態です。

**グッチー:** や～わかります！犬は暑さには弱いですから。ご飯とかはどうしてるんですか？

**稲垣:** ドライフードです。食欲のない子には缶詰を混ぜてあげたり。フードの方は支援が充実しているので助かってます。

**グッチー:** もしかしたらこの中に支援していただいている方がいるかもしれませんね。ありがとうございます。

**坂上:** じゃあ一番お金がかかるのは病気ですか？

**稲垣:** そうですね、医療費は大きいです。お世話になっている動物病院では非常に安く診察していただいているので、これだけの数が救えています。通常のコストでは、たぶん無理だったでしょう。だから、その病院があったということも、会の子達を救えた大きな要因になっています。

**坂上:** 医療費は病気だけじゃないですよ。保護犬・猫はすべてしっぽの会で避妊去勢をしてから、希望者の方にお渡ししているんですよ。それだけでも結構なお金がかかりますよね、当然。

**稲垣:** そうですね。お金も時間もです。病院までは片道30

分くらいかかるんですね。なので、その時間のやり繰りも大変なんです。

**グッチー**：こうした活動をしてますと…ぶっちゃけた話ですけど、自分達はちゃんとした事をやっても周囲からの理解が難しいというか…批判する人とか、冷たい声もあったりするんじゃないでしょうか？

**稲垣**：ありますね。田舎なものですから、飼い犬を散歩のために放す人がいるんです。うちでは絶対に放さないんですけども、うちが犬を逃がしてるというように役場のほうに苦情がいて、注意を受けたりなんて誤解もありましたね。

**グッチー**：勘違いですね。いくらこちらが気をつけても防ぎようがないことってありますよね。

**稲垣**：そうですね。ただ、絶対に逃がさないように気をつけています。

### 犬のためにエアコン購入しました！（GUCHY）

**坂上**：苦労は多いと思いますが、それ以上にいいこといっぱいありますよね？

**稲垣**：はい。やっぱり皆さんに犬猫を見に来ていただいて、縁があって貰われて行くのがうれしいですね。まあ、その為にやってる訳ですが。

**坂上**：今年の冬には感動的なことがありましたよね。新年早々、ものすごく大きな腫瘍があるキャバリアが札幌市動物管理センター（以下、管理センター）からしっぽの会に引き取られて。正直、もう無理でしょうって動物病院からも言われていたのに、「うちで看取

りたい」という方が現れて、そちらで最後を迎えたんですよね。

**稲垣**：たった4日間だったんですけどね。

**グッチー**：一度飼ったからには最後までやっぱりちゃんと看取ってやりたいですよね。犬の寿命は当然人間より寿命が短いわけですから。

うちの犬、今9歳なんですけどもちょっとずついろんな所悪くなり始めてしまって。そうすると、死について考えるようになるんですよね。なるべく一緒にいて、たくさんの思い出を作ってあげたいと思うもんですから、自分の趣味もそっこのけ。一日の中で一番時間を長く取ってるのが犬の散歩ですね。

**坂上**：はあ～。

**グッチー**：毎日、雨の日も雷の日も朝晩散歩していると、「グッチーさん、辛くないですか？」って言われるんですけど、寿命も短さを考えたら全然。で、また、犬のほうも頭が良いもんですから、「そろそろ散歩行ける時間だね」って手を出してくるんです。野球を見ても終わりヒーローインタビューが始まる頃には俺の傍に来て（手でチョイチョイ）「散歩行くよ」って誘うんです。

**坂上**：ははは。賢いですね～。しかも、グッチーさん、犬がいなければ買わなかったよ！という物を購入したと聞いたんですけども。

**グッチー**：あ～、え～とですね～贅沢だろうってみんなに怒られると思うんですけど、犬のためにエアコンを購入しました。うち、ほんと暑いんですよ。この家に引越してきてから犬があまりにも、もうゼーゼーハアハアいい始めるので。



**坂上:** 見てられないですね～。

**グッチー:** 今日の予想最高気温は30℃って天気予報で言っていたので、エアコンをピッとつけてから出てきました。

**坂上:** 相当な犬好きですね。キャバリアと黒ラブ、どっちが9歳？

**グッチー:** 黒ラブが今9歳で、キャバリアが今7歳。

**坂上:** 最初から2匹の関係は問題なかったですか？

**グッチー:** 最初はね～。大型犬と小型犬というのもありまして、あまり相性が良くなく。しかも、うちのキャバリアは、僕がよく行く店のペットコーナーに半年もいたんですよ。毎日来店するお客さんに「あ～！可愛い！」って言われてストレスだったんでしょうね。うちで飼ってからも、遊びにきたお客さんから「あ～！！」って言われると身構えてました。

**坂上:** なるほど。

**グッチー:** そんな犬だったもんですから、余計に。黒ラブって遊びたがりいな犬じゃないですか。どうも相性が

悪く。最終的には仲良はなっただんですけども、なれるまでに半年間くらいかかりましたね～。

**坂上:** 半年？！

**グッチー:** はい。でも今度はキャバリアが慣れてくれば慣れてくるほど「自分の家だ！」って主張し始めたんですよ。やっぱりワガママなところがありまして。そうすると、黒ラブの方が遠慮し始めたんです。しまいには立場が逆転。僕の飼い方ももちろん悪いんですけど、ずーっと、黒ラブが僕の後ろに隠れてるような状態で。これじゃいけないと思ってちゃんと順位づけを意識し始めてからはうまくいくようにはなりました。

**坂上:** 今はもう仲良く？

**グッチー:** はい、今はもう。

**坂上:** うちは逆なんですよ。うちは先住犬がキャバリアで、その後、管理センターからブルマスティフを引き取ったんです。当時はブルマスの子犬だとは知らなくて。小型犬の成犬だと思ってセンターに行ってみたら、ホームページの写真よりも明らかにデカくなる。「この子じゃない！」と思ったくらい。うちは最初の一年間は仲良しだったんですよ。ところが、立場が逆転してしまって。おやつでもなんでも取られるキャバリアがついに発狂して大喧嘩。止めに入った私は手を噛まれて、5日間入院。その上、キャバリアが元々心臓が悪くて毎日お薬を飲んでるんですけど、ちょっとケンカするとハアハアしてフニャフニャになってしまう。それでちょっと実家の方に預かってもらったんです。安易に引き取った私が良くなかったんですけども、親が犬が好きだったって事で救われました。

## 私、遺書を書いてありますよ（坂上）

**坂上:** グッチーさんも私も2匹の犬と暮らすにあたっては、犬同士の相性でやや苦労しました。私の場合は1匹を実家に連れて行って結果的にはよかったわけですが、やっぱり犬を引き取るということはそれなりの覚悟が必要だということですよ。

**稲垣:** はい。しっぽの会でも一度はもらわれたけど、戻されるというケースはあるんですよ。やっぱり一匹一匹性格も個性も違うので上手くいかなかったりとか。残念ですけど必ずあります。

**坂上:** なるほど。例えば、一般の方が保健所から引き取ったのに、また保健所に返すといったケースもあるんでしょうか？

**稲垣:** 今、管理センターのホームページに載っているハスキーミックスの子も一度貰われていって戻されてますね。遠吠えするとかで近所から苦情があって戻されたようです。安易に引き取ってまた簡単に捨てられてしまうと、その犬がその先どうなるか…もう少し考えていただほしいですね、慎重に。

**坂上:** みんながみんなじゃないですけど、犬にも捨てられた理由はあると思うんです。吠えとか、噛むとか。もちろんそうなのは元の飼い主の責任ですけど、それは覚悟しなきゃいけないことではありますね。もちろん中にはすごい行儀の良い子もいると思うんですけど、引き取ってみないとそれは分からない。

**稲垣:** そうですね、管理センターでは、その犬と触れ合う多少の時間を取る事は出来ますけど、そこで判断するしかありませんから。その時はおとなしくても、もしかしたら1年経って本当の性格が出てきて問題が起きたりするかもしれない。でも、それをいかにクリ

アしていくか、乗り越えていくか、とにかく努力していただきたいんですよね。「もう飼えない」と簡単に手放すんじゃなく、情報を集めて、本当に信頼できるトレーナーさんや動物病院に相談するとか。

**グッチー:** その通りですね。

**坂上:** しっぽの会には“お試し期間”はあるんですか？

**稲垣:** 先住犬がいたり、家族のなかに会まで足を運ぶことのできないお年寄りの方がいたりとか、そういった場合は真剣に考えれば考えるほど、引き取ることにためらいが出ますよね。なので一応お試し期間として2週間を設定しています。当然、飼う意思の固まっている方限定ですが、2週間の中で何かどうしても避けられない問題が起きた時にはこちらでまた引き取りますというシステムです。



**坂上:** まずは、自分がそうした動物を飼っても本当に大丈夫な環境なのか、確認する必要がありますよね。私、遺言を書いてありますよ。うちの子を死んだら誰に預けるか。友達とお互いに。独り身なもので。特に事故の多い仕事をしてますし。

**グッチー:** 身体はあって、かなり無茶な仕事もしてるもんね～(笑) 飼い主として気をつけないとね。

(ここからは当日配布したリーフレットを参照しながら、進  
行しました)

## 平成 20 年度 北海道・札幌市 収容犬猫殺処分数について

**グッチー**: このイベントのタイトルは「知ることからはじまる  
7633 失われた小さな命たち」。もちろん、これをゼ  
ロにしたいんですが、現状としては(お手元の)リー  
フレットで見ていただいた通りです。

**稲垣**: 殺処分は、だいたい猫が8割、犬が2割です。猫は  
目も開いていない子猫がほとんどと言っていいで  
す。

**坂上**: それはやっぱり避妊去勢をしていないせいです  
か？

**稲垣**: そうですね、飼い猫が産んだ子猫や、野良猫が自  
分おうちの庭や敷地で産んだ子猫が持ち込まれて  
います。

**グッチー**: うちの近所にもまだまだ野良猫がいますよ。難  
しいですけど…、猫がそこうろついていて、やせ  
細っている、可哀想だからご飯をあげようって方が  
いるみたいで。でも、そういう猫には避妊去勢が必  
要ですよ。餌をあげる人が責任持ってそこまでし  
てあげたらいいんですけども、避妊去勢はしないの  
に餌だけ与える。そうすると猫は元気になって、活  
動範囲も広がり、数が増えてしまう。増えるとそれが  
一つの社会問題になって、その社会問題というのも、  
人間の責任ではなく、そこにいる猫が悪い事になっ  
てしまう。

**稲垣**: そうなんです、可哀想だから餌をあげるのは人と

して当然の気持ちですけど、ただ、それによって不  
幸な命がまた産まれてしまうことを考えていただき  
たいんです。餌をやる場合はトイレの始末と避妊去  
勢をする。一代限りで終わらせる、そうした意識をみ  
なさんにも持っていただきたいですね。会のほうに  
も毎日のように「猫が棄てられている」、「うちで産ん  
でしまった」、「猫飼えない」という相談がくるん  
です。でも、保健所にも命の保障のない子猫がいるな  
か、私達にはそこまでは手が回らないのが現状で  
す。せめて不幸な命を増やさない、産ませないとい  
う意識を持っていただく。それだけでも殺処分される  
数っていうのは減らせるんじゃないかと思うんです。

**グッチー**: 犬の殺処分は猫と比べるとずいぶん少なく感じ  
ますね。犬は減ってきてますか？

**稲垣**: 犬は減ってきています。所有者不明の犬は法律で  
捕獲しなければならないことになっていますし、また、  
犬の場合はだいたい家の中で飼われるようになって  
きましたので、子犬の持ち込みも非常に少なくな  
ってきています。

**坂上**: 譲渡率も変わってきてますか？

**稲垣**: そうですね。札幌市も今では、飼い主が直接持ち込  
んだ犬をホームページで見ることが出来るようにな  
りました。

**坂上**: それはいいことですね。でも同じ道内でも保健所に  
よってはホームページに犬猫の情報が載っていな  
いところもあって、なかなか情報が入りにくかったり  
しますよね。

**グッチー**: そうなんですか。殺処分の現実についての話を  
伺いたいんですけども…

**稲垣**: 北区の福移という場所に札幌市動物管理センター

があります。市内の各保健所から犬猫がそこに集められ、飼い主さんのお迎えを待っています。飼い主さんが現れず、その後誰にも引き取ってもらえなければ、そこで命を絶たれます。



**グッチー**：収容期間というのは何日もないですよね？

**稲垣**：そうですね、自治体によっても違うんですけど、札幌の管理センターでは日曜・祭日を除いた1週間です。その間に飼い主さんが迎えに来なければ処分対象になります。処分対象イコール譲渡対象にもなるんですけども。

**グッチー**：しかも、その殺処分の方法は…。こちらに集まっていってしゃる皆さんはだいたい知ってらっしゃるとは思いますけども…

**稲垣**：今回、北海道の雑誌「北方ジャーナル」の8月号が殺処分の実態や私たちの活動も取り上げてくださったんですが…その後、ホームページで管理センターの殺処分の動画を公開してくれました。これはほんとに、是非みなさんに見ていただきたいんです。どこか遠い国や、国内でも自分達の知らない場所で起きてる事ではなくて、この札幌市で起きている現実です。犬猫のことを思うのであればこそ、見ていただきたい映像です。これまで公開された殺処分の映像で、自治体の名前が出たことはありません。札幌

市動物管理センターが許可をしてくださったということはもちろん、北方ジャーナルの記者の方の熱意で実現できた事だと思うんです。これを大きな輪にしていっていただけたらと思うんです。目を逸らさずに向き合ってこそ命が救われると思います。

**グッチー**：見ると丸一日、相当重い気分になると思います。でもやっぱり見ていただいて、またそれをどなたかに伝えていただきたいです。それだけでも、この運動に参加していただいていることになると思います。例えば、愛護団体に寄付をすとか、犬を引き取るとか、いろんな協力方法はありますけども、見たことを誰かに伝えるっていうそれだけでもいいですよ。もしかしたら殺処分されてしまう頭数が7633から1匹ずつでも減らせるかもしれない。「北方ジャーナル」も、是非読んでいただきたいですね。

## 平成20年度 北海道・札幌市 飼い主の放棄理由について

**坂上**：続きまして放棄理由。こちらはどうぞ。

**稲垣**：納得できる理由はないですね。いかに無責任な私達人間によって、言葉を持たない動物達はその犠牲になっているかっていう事をこの表から見て感じ取っていただきたいと思います。

**坂上**：猫と犬の放棄理由はちょっと違いますよね。

**稲垣**：そうですね、やっぱり猫の方が一年間に子供を産む回数が多いんですね。生まれた子猫が乳離れするかしないうちに次の発情期が来て、次の子が宿ってしまうので、どんどんどんどん増えてしまう。目の開いていない子猫がセンターに持ち込まれる数が非常に多いんです。



**グッチー:**この間、YouTube で過去のニュース映像を見ました。犬を棄てる人に保健所の方が放棄理由を聞かれますけど、「犬の足に水虫みたいなのできたから」って。驚きましたよ、この世の中にそんな理由で棄てる人がいるんだって。そのほかにもオジさんが猫の首根っこを捕まえて、ほいほいトラックに乗せていく、そんな映像もありました。最近の映像ではないと思うんですけど、思い知らされましたね。

**稲垣:**私たちが保健所に行くと、必ずといっていいほど子猫がに持ち込まれています。発砲スチロールの箱に入れられ、ガムテープでぐるぐる巻き。それを開けた時にはもう仮死状態なんです。袋にいれて縛ってるとか、とにかくもう死んでもいいっていう状況で持ちこまれています。野良猫がいるっていうと、それを駆除する業者もいるんですよ。

**坂上:**えっ？業者ですか？

**稲垣:**そうです。そういった方が捕まえて持ち込むという、そういうのもあります。

**グッチー:**いろんなことを避けるためには、まずは、自分に犬猫が飼えるかどうかの判断が大切ですよ。飼い主本人が亡くなってしまったりっていうのは、確かに止むを得ない理由だと思うんですよ。

**坂上:**でも、このリーフレットに書かれているようなことは、犬猫を棄てる理由には当てはまらないですよ。

**稲垣:**よく、「引越しをしたんだけど今度の引越し先は犬が飼えないから」と平気で言う方がいらっしゃるんですよ。犬猫を飼える住まいを探さなかったんですか？って聞くと、時間がなかったとか。そういった理由でもう飼えないんだと。

**坂上:**理由になってませんね、それはもう。

**稲垣:**それはただの言い訳ですよ。たくさん理由が書かれていますけど、結局その裏にあるのは「もういらない」ということ。そういう人たちが犬とか猫を飼えないようなシステムが必要ですよ。動物を守るのも、無責任に捨てるのもすべて人間。犬や猫は野生では生きられないので、私たちがキチンと管理しなければならない。

**グッチー:**日本では今、ペットショップでガラスのショーケースに入れられてワンちゃんネコちゃん達が売られますよね。我々もそれを買うのが当たり前だと思ってますけど、ネットなどで得た情報によるとペット先進国といわれているドイツあたりではペットをショーケースに入れて販売すること自体を禁じているんですよ。「命は命」という考えなので、ブリーダーから、ある程度成長した犬を買きましょうと。また犬はノーリードでも歩けるくらい躡けることが普通だし、犬税が発生するところもあるそうですね。日本ももっと法整備が必要かなあと。

**坂上:**法律上、動物の命は「物」という捉えられ方をしているので、そこを変えないとどうにもならないですよ。私思うんですよ、みんなで「物じゃないー！」って言って歩くことが必要だと。それでいろんなことが変わるはず。ブリーダーから買うのは良いんですけども、そのブリーダーもいろいろいて、中を見せてくれない所も多いですよ。見せられないような劣悪な環境で生まれて、この子は果たして健康に生きていけるのかなあと疑問に思うことがあります。今年の春、廃業するブリーダーを見に行ってきたんです。とにかくいろんな犬種がいたので、一目見たときから正しいブリーダーではないと思ったんですけど、犬の状態もひどくて…毛がモサモサで目が見えていないとか、とにかく全然愛情が注がれていないんですよ。物として作り上げて売ってる印象。シーザーがいっぱいいいて、オーナーさんも「これ持ってって」

みたいな感じ。一緒に行った人が「この状態で犬の識別はできるの？」と聞いたら、「わかんねー」って返事が…。ということは、血統書の意味もないですよ。どの犬が交配したかわからないんですよ。滅茶苦茶でしょ。犬が吠えると、置いてある長い棒でケージを叩いて、「うるせー！」って。やっぱりブリーダーもお客さんに中を見せてくれるような状況にしないと。

**グッチー**：そうですね。

**坂上**：ブリーダーを管轄しているのは保健所ですか？

**稲垣**：行政では年に1回、登録業者を見に行くことになっています。ただ、それは形式的なことで、良くない繁殖場があったとしても注意する程度かもしれませんね。法律的に何か出来るかという難しい面があります。ブリーダー出身のワンちゃんっていうのも、たまに保健所に入ります。一般の家庭で飼われていた犬とは明らかに違って、見ればすぐに分かります。例えばケージに入るとすごく吠えるけど、ケージを開けてもなかなか出てこないとか、中でグルグル回るとか。普通の子はケージを開けると喜んでパア〜と外に出るんですけど、ブリーダーにいた犬は出ませんね。狭いケージに入れられればなしなので背中が丸まって、爪も伸び放題。また、ずっと網の上において外を歩いたことがないので、うちみたいな犬舎に放すとあつという間に肉球の皮が剥けてしまう。皮膚もほとんどボロボロ状態。今、管理センターにいるシーズーもそうですけど、カットが必要なワンちゃんっていうのはケアをしないとあつという間に酷い状態になってしまうんです。一般家庭の飼育放棄でもすぐにそういった形になってしまいますけど、繁殖犬は一目瞭然です。

**坂上**：ちゃんとしてるブリーダーかそうじゃないブリーダー

か。それが問題ですよ。



### 保健所収容 ゼロ をめざして！

1. 犬は必ず登録し、鑑札・迷子札をつけ、マイクロチップを装着する

**グッチー**：マイクロチップっていうのは、いまどうなんですか？

**稲垣**：私たちしっぽの会では必ずマイクロチップを装着してから新しい飼い主さんに犬猫をお渡ししていますよ。マイクロチップは番号を埋め込んだカプセル。犬や猫の体内一首すじのところに、注射器のようなもので入れます。各保健所にはそのチップの番号を読み取る機械があって、番号を識別することで飼い主さんがすぐに分かるというもの。たとえ迷子になってしまっても、首輪や迷子札が外れてしまってもマイクロチップは離脱することはないので安心です。

## 2. 猫は戸外に放さない！迷子札やマイクロチップを装着する

**グッチー**：猫についてですが。猫の方が問題は深刻かもしれませんね。

**稲垣**：そうですね。猫は鑑札もなければ登録制でもないので、飼い主さんのところには戻りにくいんです。

**グッチー**：猫は一回外に出しちゃいますと帰ってこないですからね。

**坂上**：私、怖いものを見つけたんですけど…。ヤフーオークションを見ていたら、猫の皮を売っていたんです。三味線用に。

**グッチー**：三味線用に？

**坂上**：私が剥がした訳ではありませんって書いてあったんですけど、これ猫飼ってる人にどんどん言っていこうと思いました。もしさらわれたら…というのがありますよね。実際に売ってましたから、それが。

**グッチー**：通常、日本の文化の三味線の場合はちゃんとした機関があって、そこで処分された猫で作られていますよね。ヤフオクで売るものではないかと。

**坂上**：何されるか分からない世の中ですから。ほんとに。

## 3. 犬猫が行方不明になったら、関係機関に届け出る

**グッチー**：当然ですね。自分の犬がマイクロチップを着けていなくて、飼い主も関係機関に届けてなかったら…。殺処分対象になる事もありうる訳です。

## 4. 収容期間の延長を！猫・放棄犬にも収容期間を！

**坂上**：札幌では1週間でしたよね。

**稲垣**：札幌は犬が1週間。土日を除くので、まあ、10日間くらいだったりとかはしますけども。だいたい一週間ですね。

**グッチー**：国の偉い方が親戚にいる方っていらっしゃいますか？うちの親父が大臣なんですけどっていう方がいてくれると、この現状を変えられるかもしれません。一日遅くて間に合わなかった、なんてこともあるかもしれませんから。

**坂上、稲垣**：ありうる

**グッチー**：ほんとに少しでも延長できればとね、思います。

**稲垣**：そうですね、札幌は一週間ですけど、法律的には、公示期間は2日間なので、地域によっては3日目、4日目ですぐ処分というところもあるので、2～3日帰って来ないねって言う間にもう処分されてるっていうこともあります。

**坂上**：札幌市はホームページがありますけど、管理センターによってはホームページがなかったりと情報が入ってきにくい事もありますからね。

**グッチー**：殺処分場、先ほどの「北方ジャーナル」の話で映像の方でも見られますけど、写真では会場の2階に、その殺処分場のながれを追ったパネルもありますので見てください。ガス室に送り込まれてしまう犬や猫、もし同じ殺処分であっても、できれば苦しまないように一匹一匹注射を打ってあげたいですよね。でも、それにはお金がかかるから、まとめてガス処分されています。収容期間の延長にも注射にも予算が必要です。何が正解なのかはわかりませんが、いろんなことをやっぱり考えていかないとい

けないのかなって気がします。

#### 5. 保健所を繁殖業者の受皿にさせない

**グッチー**: 悪徳繁殖業者をなくそうってことですよ。

**坂上**: そう。

#### 6. 早期に避妊・去勢手術をする

**グッチー**: そして、今度、飼うのであれば、やっぱり、棄て犬、捨て猫の飼い主になって欲しいと。

#### 7. 捨て犬・捨て猫の飼い主になる

**グッチー**: 7番目はそういうことになっています。  
そして、今度、飼うのであれば、やっぱり、棄て犬、捨て猫の飼い主になって欲しいと。

#### 8. 北海道の保健所の情報を広く伝える

**グッチー**: ホームページなどもありますから、みなさんでぜひ情報を共有して、やりとりしていただくと、更に広がるのかなあと。

#### 9. 安易に飼わない

**グッチー**: 命のやり取りなのにね、インターネット販売とか、あとショップでの「今なら何万円引き！」という安易な値引き。「ええええ〜っ」って思っちゃいますよ。

**坂上**: クリスマスとか、イベントに合わせてセール！なんの意味があるんじゃ〜！！

**グッチー**: ね〜切ないですね。10万円に×が引かれて5万円に！犬猫の命ってなんなんだろうって思いますよ。

**坂上**: オークションもありますからね。生体オークション。  
“犬、1円スタート！！” ふざけんな！と思います。

**グッチー**: そのあたりも変えていかなきゃいけないことですよ。安易に飼わないことが必要。生活面でもそうですよね、例えばものすごく転勤が多い方とかは、本当に飼っても大丈夫か考えていただきたいですね。

**坂上**: そうですね。あと、ペットショップにはドッグフードなど、いろいろ売ってますけど、そういうものを買わないで欲しいですね。悪徳なショップは潰したいんです。

**グッチー**: やっぱり動物を飼うときには相当な覚悟が必要ですよ。しっぽの会や保健所から犬を引き取る場合でも、もしかしたら問題行動があって、捨てられたということもあるかもしれないです。

**稲垣**: そうですね、どういった理由や状態で管理センターに来たかは私たちには分かりません。ほとんどが私達人間側に問題があるんですが、犬がそういった状況に追い込まれ、犬のせいとされ持ち込まれてしまうことはあります。知識のない人に育てられたために結果的にそうってしまったのがほとんどで、犬自体に問題があることはまずないです。ただ、そういった環境で育った以上、問題行動はあります。でも、きちんとケアすることで普通のワンちゃん達と同じ状況になります。長沼の方には元々野良犬だったりとか、なかなか人間に溶け込めない犬も多いです。でも、それをその子らしさとして受け入れて付き合う気持ちをもって向き合うことはできます。他の犬と違うことを悲観に思う必要はないです。人間の子どももそうですけど、他の子と比べる必要はなくて、その子と向き合えばその子との関係が築けます。例え問題行動があっても、うまくやっていく方法はあるんです。それは私たちが解決してあげなきゃなら

ないこと。犬を飼うということは楽しいことばかりではありません。大変なこともたくさんあります。でも、それを乗り越えたときに、また絆も深まりますし、犬や猫への愛情もまた違ったものが生まれます。簡単に手に入るけど、育てるのはすごく大変です。でも、それが楽しみで、苦しみで、いろんな事が自分のプラスになって、ワンちゃんのプラスにもなる。ただ飼って、餌をやって、トイレの始末をすれば良いっていうものではないんで、犬の気持ちに立って向き合おうという気持ちがあると犬もちゃんとそれに応えてくれると思います。

**グッチー**：さっき、打ち合わせのときに三人で話してたんですよ。自分の犬が死んだときにどうしよう、死んだ後どうなるんだろうって。死んじゃったら、暫くは飼えないだろうなあ〜、ペットロスになっちゃうんだろうなあ〜って。その時、稲垣さんから言われてなるほどなあって思ったのは、その犬が死んだあとにまた犬を飼ったら、前にいた犬と比べてはいけない、前の犬の姿を求めてはいけないってこと。目の前にいる犬はその犬として受け入れて育てるべきという話をしてたんですよ。それぞれの犬に合った育て方があるんですよ。



**稲垣**：そうですね、ワンちゃんによって性格は違うし、犬種によっても当然違います。例えば、今、流行ってる北海道犬などの和犬は飼い主には忠実ですけども、

元々は熊が現れた時に、飼い主を守るように攻撃性の高い気質をもっていたりします。安易に手に入れてカワイイカワイイって育てると手の付けられない犬になる場合も少なくないんです。知識を持って飼わなければ人間にとっての問題行動になります。また、小型の洋犬タイプのワンちゃんでも、テリア系やダックスなど、狩猟犬として生み出された歴史がある犬種は良く吠えますし活発です。獲物を仕留めるために攻撃する本来の特徴もあります。どんな子でもやっぱり飼い主次第で大なり小なりの問題行動はおこります。一匹一匹がみんな違うってことを自覚して、向き合って育てることが必要ですね。会にも、犬が亡くなってしまったので、また飼いたいという方がよく来ます。飼っていた犬の影を追い求める人もいれば、今まで上手くいってて、犬との関係にすごく自信を持っている人も。例えば、この犬は問題行動があるので気を付けてくださいと伝えても、「犬は分かっているから、分かっているから」と聞く耳をもたず連れて帰り、即日返してくるといったことも実際にあります。私たちがどれだけ言っても、犬が欲しいという気持ちが先走って周りの声が聞こえなくなってしまうんでしょうね。まずは冷静に考えて、責任持って飼う、それが大事です。

**坂上**：最後に、しっぽの会が変わったとお聞きしたんですが？

**稲垣**：はい、今回、しっぽの会は NPO 法人になりました。

(拍手)

**稲垣**：ありがとうございます。

(拍手)

**稲垣**：NPO 法人になっても何も変わらないんで、これから

もコツコツとしっぽの会らしい活動をしていきたいと  
思いますので、みなさん、どうぞよろしくお願いいたします  
します。

今日も2回で展示スペースもありますし、販売も行っ  
ていますので、ぜひ立ち寄っていかれてください。  
よろしくお願いいたします。



トークは当日 DVD で撮影したものをまとめたものです。